

道徳の授業をどうするか？ 例えば

○道徳が教科化されたため、道徳科の年間指導計画に従って指導し、評価していくこととなっている。

○評価が文章表現となっているため、明確化する必要がある。毎時間の評価の「見える化」が、大切であろう。(子供にわかる評価)

○道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

○道徳の時間だけでは、目的の達成はできない。子供たちは、道徳の授業だけでは、現実の自分たちの問題として振り返って考えることは難しい。**毎日の授業の中で、学校生活の中で、具体的場面で指導が必要である。**

例えば、授業中の子供の発表に対して、「〇〇君の発表は、こんなところがすばらしいね。」とか「まちがっているけど、こう考えたところがいいね。」とか、子供のそれぞれのよさを引き出すような教師の発言が大切である。決して、お世辞や「よいしょ」をしてはいけません。それは、子供が敏感に感じて、マイナス効果になるだけある。

また、けんかの仲裁のときに、周りで見っていた子どもたちに「君たちの仲間でしょう。いつもは、仲良くしている友達でしょう。どうして止めなかったのですか。」と、言ったりして仲間意識を育てるのである。

○では、道徳では、何をねらったらいいのでしょうか？

- ①道徳の教科書にある問題を提示し、それに対する善悪等の判断力をつける。
- ②しっかりと自分の考えを持つ。
- ③自分の意見が言える。
- ④友達の意見をしっかりと聞くことができる。

○具体的な授業展開例(1)

(いろいろな考えが出るような教材の場合)

「あなたは、どう考えますか？」というような課題では、考えをまとめることもむずかしいし、意見も出にくい。そこで、単純化して子どもに提示する。

- ①教科書の教材を読む。
- ②問題提起「〇〇君のとった行動は、よかったのか？」
※〇×問題がよい。討論がしやすい。「どう思いますか。」という問いかけは、話し合いがしにくい。
- ③子供同士でフリートキング。(ディベートでもよい。)
※教師は、弱い方のグループを支援する。
※結論は出さない。
- ④話し合いの後、感想を書かせる。(原稿用紙1枚程度)
 - ・自分の考えをはっきり書いているか。
 - ・友達の意見を聞いて感想を書いているか。 などをチェックする。
 - ・〇×△(ABC)等で、評価を示す。

⑤次の道徳の時間によい感想文を紹介する。また、なぜよい感想文なのかを説明する。

○具体的な授業展開例（2）

「よいおこない」「善悪」がはっきりしているような教材の場合。

- ①教科書の教材を読む。
- ②T:「〇〇さんは、えらいと思う人。そういうことをしなければいけないと思う人。」
と、問いかけるとほぼ全員が手を挙げる。
- ③T:「では、みなさんはそうしているのですか？」→C:「していない。」
- ④T:「では、よいとわかっているのにどうしてできないのでしょうか。自分の考えをかきましょう。」
- ⑤自分の考えをかかせてから話し合いをさせる。（子供同士でフリートーキング）
※結論は出ない。
- ④話し合いの後、感想を書かせる。（原稿用紙1枚程度）
 - ・自分の考えをはっきり書いているか。
 - ・友達の意見を聞いて感想を書いているか。 などをチェックする。
 - ・○×△（ABC）で、評価を示す。
- ⑤次の道徳の時間により感想文を紹介する。また、なぜよい感想文なのかを説明する。

※わかりきったことを問いかけ、結論を出し、「みなさんも、そのような人間になりましょう。」と結ぶような授業だけは、避けたい。

道徳の評価について

「ねらいとする道徳的価値」を子どもが獲得したかどうかを評価することは、むずかしいし、またそうする必要はないと思う。これは、どちらかという指導者に対する評価であると思う。「道徳的価値につて子どもたちに考えさせることができたかどうか」という評価は、必要である。では、どんな評価が考えられるか考えてみた。

	知識・技能	思考・判断・表現
話す	・話型をしっかりとらえて話すことができる。	・論理的に話すことができる。 ・説得する話し方ができる。 ・友達の意見に対して、自分の考えを述べることができる。 ・小グループでの話し合いのリーダーシップがとれる。
聞く	・メモを取りながら聞くことができる。	・友達の話をよく聞いている。 ・自分の考えと比較しながら友達の考えをきくことができる。
書く	・文を正しく書くことができる。	・論理的に分を組み立てることができる。 ・自分の考えと友達の考えを分けてかくことができる。 ・自分の考えを修正して、まとめることができる。

※こんな評価をするためには

- ①話し合いの場面が必要。「司会を立てての話し合い」より「フリートーキング」がいい。
- ②はじめの自分の考えと討論した後の終わりの自分の考えは書かせたい。→評価がしやすい。
- ③授業の中では、フリートーキングのときにメモを取っていく方法しかない。
- ④道徳的価値を考えさせる方向へ持って行くためには、フリートーキングの中で適切な介入が必要である。これがむずかしい。